

下京区東部エリアの 歴史写真アーカイブ

Lumen gallery 光束舎

▶担当 林ケイタ ▶電話 090-8448-9737 ▶メール info@lumen-gallery.com

事業目的・背景

下京区140周年という区切りに、東部エリア(有隣学区と菊浜学区)の過去の風景を記録した写真を地域の方々から借り受け、写真展を企画しました。新しい世代と下京区の歴史をビジュアルで共有したい、この試みを契機として、幅広く世代を超えたコミュニティの礎を作ることにも目的としています。常に変化する京都の街並みを地域の中で見つめ直し、さらにこれからのあるべき京都市下京区の風景を想像してみたい、という考えが背景にあります。

事業概要

有隣学区に位置するLumen galleryにて「下京思い出写真館」というイベント名で、地域の方に借り受けた写真を展示、同時に映像スライドを上映しました。また、会期中には歴史に精通した地域の方による「いにしえ語り」を行いました。有隣学区と菊浜学区に関わる祭りの風景や学校などの様子を見ながら、学生を含め、参加者が自由に発言する和やかな雰囲気を実現しました。展覧会終了後には、許可を受けた写真のみDVDとして、映像アーカイブを行いました。

活動期間

2015年4月、映像ギャラリーとして開廊、個人が制作した映画館等では上映されないような映画やアニメーション、実験映像、また、映像の空間展示作品であるインスタレー

ションなどを紹介しています。学生展はもちろん、無名作家から有名監督の短編映画まで多彩な上映企画を組みながら、ギャラリーとして映画祭も主催、関西圏の映像作家が集まる拠点にもなっています。その他展示では写真・絵画・彫刻、音楽パフォーマンスや舞踏の公演にも対応できます。

成果

有隣学区と菊浜学区住民、それ以外の下京区民、京都市在住の学生も含め、改めて下京区の歴史に関心を持ってもらいました。来場者や「いにしえ語り」の参加者は、地域にまつわるエピソードや、歴史に精通したキーパーソンの興味深い話を熱心に聞き入り、さらに下京区に注目することになりました。写真収集の方法や写真アーカイブの意義について熱心な議論が交わされました。地域を知ることによって人々が繋がっていく試みとして成果がありました。

今後の予定

地域の映像アーカイブという試みは、段階的に継続していくことが重要であり、今後さらに多くの昔の貴重な写真が掘り出される可能性があります。今回は、展覧会準備のプロセスの中で、第一段階として写真収集の方法や写真アーカイブの意義が問われました。今後は映像(動画)の発掘に展開していくべきと考えています。また、今回の試みで広がった人的ネットワークを利用し、さらに世代を超えた地域活性化を構築できると考えています。



映像ギャラリーであるLumen galleryにて写真展の様子。黒を基調としたギャラリー展示壁面に、額装した写真が合計20点。奥に常設されている200インチスクリーンには45点の写真がスライドショーとして上映され、終了後はDVDとしてアーカイブされた。



11月22日19時より開催された「いにしえ語り」の会。参加者15名、有隣学区と菊浜学区に関わる祭りの風景や近隣の小学校の様子を見ながら、学生を含めた参加者はそれぞれに気兼ねなく感想や意見を交わした。



「いにしえ語り」の会、メインスピーカーである上村隆明さん(写真右)とモデレーター田房夏波さん(写真左)。東部エリアに長年暮らす上村さんの語りを中心に、田房さんが質問をしていく進行であった。